

会 議 要 旨

(1/8)

会議の名称	令和6年度第1回川越市自殺対策連絡会議
開催日時	令和6年10月17日(木) 14時00分 開会 ・ 15時40分 閉会
開催場所	川越市保健所 大会議室
議長	埼玉医科大学総合医療センター メンタルクリニック教授 吉益晴夫
出席者氏名 (人数)	別紙のとおり (10名)
欠席者氏名 (人数)	別紙のとおり (6名)
事務局職員 職氏名	川越市保健所長 丸山浩、副所長 比留間雅彦、 保健所参事 後藤知美、保健予防課長 福田英一、 副課長 岩間亜希、主査 伊藤陽平、 主査 藤井拓実、事務 池谷真弓
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 川越市の自殺者の現状について (2) 令和5年度自殺対策計画取組調査及び前計画の最終評価について 3. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度の自殺対策事業について (2) 各委員からの報告及び意見交換 4. 閉会
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 川越市自殺対策連絡会議要綱 ・ 委員名簿 ・ 資料1 川越市の自殺者の現状について ・ 資料2 令和5年度川越市自殺対策計画取組調査 ・ 資料3 川越市自殺対策計画の最終評価 (令和元年度～令和5年度) 報告書 ・ 資料4 令和6年度の自殺対策事業 ・ 命の大切さを伝える鉄道ポスター展 ・ こころの耳をご存知ですか? ・ 過労死等防止対策推進シンポジウムリーフレット ・ 川越地区消防局自損行為に関わる統計データ ・ 埼玉いのちの電話 2023年相談統計資料 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> } 非掲載 </div>

議 事 の 経 過	
事務局	<p>1. 開会 傍聴者はなし。</p>
事務局	<p>2. 議題 (1) 川越市の自殺者の現状について 事務局より、資料1に基づいて説明。 【委員の意見】 なし</p>
事務局	<p>(2) 令和5年度自殺対策計画取組調査及び前計画の最終評価について 事務局より、資料2、3に基づいて説明。</p>
議長	<p>【委員の意見】 精神保健福祉相談の取組は、非常に多くの相談件数であるが、自殺関係に限らず、全て含めた件数との理解で良いか。</p>
事務局	<p>おっしゃるとおり。</p>
議長	<p>大事な相談であることには変わりがないが、それが自殺に直接関係あるのか間接的であるのかの評価まではなかなかできないだろうと感じた。</p>
事務局	<p>3. その他 (1) 令和6年度の自殺対策事業について 事務局より、資料4、「『命の大切さを伝える』鉄道ポスター展（報告）」に基づいて説明。</p>
委員	<p>【委員の意見】 なし</p>
委員	<p>(2) 各委員からの報告及び意見交換 警察では、自殺対策として特別なことはしていないが、日々の業務で自殺を取り扱うことが多い。 相談を受けることがあっても、継続的なケアは警察では難しく、一時的な対応となる。そのため、本会議に集まっている方々</p>

議 事 の 経 過

	<p>の協力が必要になる。</p> <p>警察は安全相談として、日々相談を受ける。委員が対応する中で、印象的な自殺の取り扱い事象があった。</p> <p>周囲が本人の変化に気づき、本人が誰かに相談などができていれば、結果が変わっていたかもしれない。</p> <p>他に、110番で自殺企図を取り扱うが、最近では、オーバードーズが目立つ。自殺企図者への対応は、医師に確認してから警察で保護して家族に帰す。しかし、その先のケアを警察では難しいため、保健所や市役所をお願いすることが多々ある。皆さんの理解を得つつ警察も何かできることがあれば行ってきたい。</p>
議長	<p>継続的なケアについて、確かに難しいと感じた。</p>
委員	<p>薬剤師会は、学校薬剤師委員会にて一般薬の過量服薬や処方薬を溜めて服用するオーバードーズが非常に問題になっている。小中学校で、薬物乱用防止教室を全校生徒や学年ごとに実施しており、薬の正しい使い方をテーマにすることが決まっているが、引き続き啓蒙活動を行っていく。</p>
委員	<p>「川越地区消防局自損行為に関わる統計データ」を基に報告。このデータに既遂者や、病院に搬送できない方は人数に含まれていない。</p> <p>現状は、薬物多量服用が一番多い。加えて、薬物摂取後に手首を切るなどの複数のパターンが多い印象である。</p> <p>普及啓発としては、普通救命講習等で命の大切さを訴えるという活動をしている。</p>
委員	<p>埼玉県教育委員会より、今年度上半期での県内小学校、中学校、高等学校での自殺者、自殺未遂者が大幅に増加したとして、問題視しているとの報告があった。</p> <p>市内の状況では、市立小学校、市立中学校、市立高等学校、市立特別支援学校では、ここ数年自殺者はない。しかし、自殺企図は増加の一途である。近年はリストカットよりも、オーバードーズが非常に増加している。</p> <p>中高校生の中で流行しているのが、飲酒とオーバードーズを同時に行う行為で、子どもたちの言葉で「いく感覚」と表さ</p>

議 事 の 経 過	
委員	<p>れる意識を失う程の状態になって、「気分がハイになる」「様々な行為に対して恐怖感を抱かなくなる」と言われている。そういう行為を意図的にする子どもたちが増えている実情がある。</p> <p>教育委員会は、主に3つの対策を実施している。</p> <p>一つ目は、未然防止として「命の大切さ」を伝える心の教育。</p> <p>二つ目は、相談窓口の周知。GIGA スクール構想で配布したタブレットからの相談。</p> <p>三つ目は、メンタルヘルスリテラシー教育の推進。県教育委員会の委嘱を受けて、子どもたちが自ら SOS を発信できるような授業を推進している。</p> <p>他に、先ほどの薬物乱用防止教室や、自殺企図等に繋がる行為の早期発見を目的としてスマホや PC、タブレットからの書き込みに対してネットパトロールを実施している。自殺企図に関するようなキーワードがあった場合に、委託先から学校にコールバックされ個別の相談活動につなげるシステムがある。</p> <p>ここ数年、増加し続ける自殺企図者へのケアとして、医療機関と連携した対応の他、リベラを中心とした相談活動、臨床心理士を中心としたカウンセリングを実施している。</p> <p>鉄道会社の自殺対策は、駅構内へのメッセージの掲出、不安そうな方への声掛けなどがある。</p> <p>現在は、啓発ティッシュ配りや鉄道3社協力のポスター展を実施している。引き続き、継続的に自殺を止めるような取り組みをしていきたい。</p> <p>鉄道の人身事故では、若い人が増えてきた印象がある。西武新宿線では、下り方で事故が多いため、掲出等に力を入れていきたい。</p>
委員	<p>相談統計資料を基に説明。</p> <p>埼玉いのちの電話で調査した結果、電話1件あたりの時間が段々長くなっている傾向がある。世の中が複雑になるのに伴い、抱える問題が多岐にわたっている。</p> <p>9月15日に実施したいのちの電話シンポジウム「依存症といのち」の記事を紹介する。薬物依存は若い人に増えているという内容で、YouTubeでも配信しているのでご覧いただきたい。</p> <p>また、カスタマーハラスメント条例について新聞記事を紹介</p>

議 事 の 経 過	
委員	<p>する。いのちの電話にも、「受け手の受け方が下手」とか、「ちゃんと気持ちを聞いてない」とか、ものすごい勢いで「お前やめろ」「死ね」という電話をかけてくる人が増えている。</p> <p>参考までに、いのちの電話にかかってくる内容を資料配布する。電話件数に対して圧倒的に相談員が少なく、繋がらないという苦情があることをご理解いただきたい。</p> <p>最後に、若者の孤立についてのユースクリニックの新聞記事を紹介する。若い人がつながる相談窓口があれば助かる命もあると思い、ユースクリニックが全国にあれば相談する若者も増えていくのではと思う。</p> <p>意見として、この連絡会議は緊張感があり、意見が出づらい会議だと感じている。委員の方々がそれぞれの組織から推薦される中心的な方々と認識して、自身も硬くなっている。</p> <p>一人でも川越市内の自殺者が減少するように、このような内容であると思うが、少しだけでも肩の力を抜くような空気も必要なのではないか。</p> <p>事務局側の説明が簡潔明瞭だったことも意見が少なかった理由の一つと推察されるが、会議であることからもう少し意見が出てほしいと思いつつ、でたらめに意見が出ることで事務局の手を煩わせてはいけないとも思う。</p>
委員	<p>厚生労働省での取組を 2 つ紹介。</p> <p>一つ目は、11月の過労死等防止啓発月間に合わせた、過労死等防止対策のシンポジウム。</p> <p>二つ目は、職場のメンタルヘルス対策専門の情報サイト「こころの耳」。</p> <p>ハローワークでは、情報コーナーにて周知するほか、窓口で対応した方で悩みを話された方に、リーフレットを渡して周知を図っている。</p>
委員	<p>弁護士会で近年問題になっているのは、事業承継の問題。</p> <p>中小企業で、事業の将来性が見いだせないとして、親族の後継者が後を継いでくれない結果、社長が高齢になり、業績は悪くなくても、社長が倒れることで会社が終わりになる。相続人は相続放棄し、従業員がいきなり放り出される、というケース。</p> <p>事業承継について相談にのれないか、と弁護士会で話し合っ</p>

議 事 の 経 過	
議長	<p>ている。</p> <p>弁護士は、自分たちからアピールするより、来る相談に対応する職種。もっと早く相談してくれれば、というケースがとても多い。</p> <p>直接自殺に影響するわけではないが、いきなり会社がつぶれると言うことは間接的に自殺に関連すると思うので、対応すべきと思っている。</p> <p>埼玉医科大学総合医療センターは、ベッド数が1000床あり、3次救急に対応している。</p> <p>そのため、自殺企図者もかなり多く搬送され、重症の方も多。先ほどから話題にあるオーバードーズは比較的軽傷で、一晩寝て治療すると翌朝には意識も戻り、会話も普通にできて退院する方が多い。何でやったか覚えてないとか、死にたいとは思ってなかったとか言う方もいるが、繰り返す方も多く、繰り返しの途中で命を失う危険はあり、常々心配はしている。</p> <p>このたび、診療報酬変更に伴い、自殺企図を繰り返す人への支援を重点的に行えるように改正されている。</p> <p>そのため、自殺再企図防止のための救急患者精神科継続支援研修会を精神科医、看護師、心理士が受講している。自殺企図の救急患者の継続治療が手厚くなり、繰り返しがもう少し減ると良いと思う。</p>
事務局	<p>ユースクリニックは、川越市でも10月6日、11月4日にすすく川越で開催することを情報提供。</p>
委員	<p>人工知能を使って相談を受けている自治体の記事があった。川越市では実施しているか。</p>
事務局	<p>当市ではAIを活用したチャットシステムは行っていない。外部のチャット相談について情報提供、周知をしている。</p>
委員	<p>ある雑誌の投書欄にAIに相談したら涙が出るような返事が来た、と投稿があった。それほどにAIは進化している。</p> <p>埼玉いのちの電話は、かけてもかけてもつながらないと言われるが、機械でもいいからすぐに聞いてくれる人がいて安心できる時代になってきていると思う。</p>

議 事 の 経 過	
議長	<p>大学は、疾病についてのやりとりをAIにさせる研究を進めている。評判は悪くないが、時々間違っただ内容が返ってくるので修正している。</p> <p>精神科のカウンセリング、心理学のカウンセリングはAIが最も浸透しにくいと言われていたが、そうではないということも報道されるようになった。決して自分に逆らわず、すぐにレスポンスしてくれるのが人間よりも優れているという報告もある。</p> <p>一方で、AIと相談した後に自殺を決行したとの新聞報道もあり、未完成かと思っている。</p>
委員	<p>今は全小中高生にタブレットが配布されるような状況で、小中高生は当たり前のようにパソコンが使える。そう考えると、教育の大切さはすごくあると思っている。パソコンを使って自殺対策に特化した相談ができるような教育も大切だと思う。</p>
委員	<p>おっしゃるとおり。自殺というキーワードより、悩みがあった時に誰かに相談でき、悩みを持った自分をどうやったら解決策に導けるのか、その道標を示すことがすごく重要と思う。</p> <p>子どもたちがそういう悩みを持つことが悪いとは思っていない。自殺はあくまでも一つの方向性であって、大事なのは、人間必ず悩みや様々な壁にぶち当たることがあるので、その中で自分がどう振る舞っていくのか、どう解決していくのがより良い方法なのか、それこそが、まさしく教育だと考えている。</p>
委員	<p>AIの良いところは、AIは感情を持っていないので、相談者が相手にどう思われるかを気にする必要がないところだと思う。</p> <p>相談は、人間と人間のコミュニケーション。相手がどういう反応をするかの怯えがどうしても生じる。相手にどう思われるか、もしきつい言葉を言われたらどうしよう、という想いが相談に踏み切るのを難しくさせているところかと思う。</p> <p>AIなら、そういうことを一切気にする必要がなく、投げかけには必ず応えてくれる。</p> <p>ただ、AIには考える力はない。学習した情報から最も可能性の高い答えが返ってくる。本当に正しい答えになっているかは疑問。AIだけで終わってしまうのは、ある意味では少し危</p>

議 事 の 経 過

険かと思う。AIに相談した後に必ず人間につなぐ、という形での相談が良いかと思う。

次回、令和7年1月10日（金）午後2時から開催。

4. 閉会

